



NEWS LETTER かながわ

2013 年度第 1 号(通巻第 13 号)

2013 年 6 月 神奈川支部 発行

連絡先 e-mail: jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp

巻 頭 言

神奈川支部 支部長 三隅 輝見子

神奈川支部は、設立 8 年目を迎えました。去る 4 月 20 日(土)の総会では、新たに新役員 2 名(研修担当、災害支援担当の増員)が承認され、今年度は総勢 18 名(執行役員 16 名、監査 2 名)の役員体制で支部活動に取り組みます。支部活動は、“臨床発達心理士”の共通基盤となる専門性と技術の向上、会員間の相互交流、地域連携の推進を図ることを目的として、①研修活動、②災害支援対策、③広報活動の 3 本柱を中心に進めて参ります。具体的な活動計画につきましては、神奈川支部ホームページに総会資料等を掲載しておりますのでご覧ください。

さて、現在、心理職の国家資格化の動きが活発化してきております。3 月 15 日に開催された日本発達心理学会シンポジウム「心理職の国家資格の展望と課題」への参加や国家資格化に向けた署名活動への協力、日本臨床発達心理士会ホームページ等で、すでにご存知の方も多いと思います。また、4 月 14 日には、「一般財団法人日本心理研修センター」の設立総会、および記念フォーラムが開催されました。当日は、自由民主党・国会対策委員長・心理職の国家資格化を推進する議員連盟幹事長の鴨下一郎氏の挨拶、日本医師会会長の横倉義武氏と日本心理研修センター理事長の村瀬嘉代子氏、明石市長(弁護士・社会福祉士・元衆議院議員)の泉房穂氏との鼎談などがあり、臨床発達心理士認定運営機構からは本郷一夫代表理事、秦野悦子事務局長が、日本臨床発達心理士会からは長崎勤幹事長、早山文悟職能委員会委員長、立元真広報委員会委員長が出席しました。日本心理研修センターの開設は、国家資格に向けた研修の整備と試験機関の準備を着実に進める大きな一歩になります。

* 詳細は日本心理研修センターのホームページをご覧ください。

国家資格化の動向は、“臨床発達心理士”の存在基盤に関わる重要な問題です。神奈川支部ではできるだけ情報をタイムリーに取得し、皆様に発信していくように努めます。会員の皆さまも、ぜひこの動向に関心をお持ちいただきたく存じます。

今年度も、神奈川支部の活動にご理解とご協力の程、よろしくお願い申し上げます。



神奈川支部総会報告

2013年度の神奈川支部定期総会が、4月20日（土）14：00～に bono 相模大野 ユニコムプラザさがみはらにおいて開催されました。44名の出席と50名分の委任状により、会員数205名の三分の一を超えましたので、総会が成立いたしました。

はじめに、三隅支部長からのご挨拶と、また秦野副支部長からの心理職の国家資格化関連のお話がありました。

総会では、2012年度の活動報告と会計報告・会計監査報告、があり、さらに2013年活動計画案および予算案が提案され、承認されました。神奈川支部規定改訂についても承認されました。

支部規定の改訂により、総会の成立には会員の三分の一以上の出席と委任状提出が必要になります。今回は、午前の研修と午後の研修の間に総会が開催されたため、多くの会員の先生方に総会にもご出席いただくことができ、また、午前のみ研修に参加された先生方にも委任状をいただくことができました。今後ともどうぞご協力をお願いいたします。

（文責：吉田 麻衣）

神奈川支部総会の様子



神奈川支部研修会報告



テーマ：「発達障害のアセスメントの最新動向」と「発達支援の実践報告と意見交換」

日時：2013年4月20日（土）

場所：bono 相模大野 ユニコムプラザさがみはら

<午前の部>

テーマ：自閉症スペクトラム児の早期診断とその意義：ライフステージの観点から

時間：10：00～13：00

講師：神尾 陽子先生

（国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・思春期精神保健研究部）

参加者：97名

「発達障害のアセスメントの最新動向」として、国立精神・神経医療研究センターの神尾陽子先生から、自閉症スペクトラム児の早期診断についてお話をうかがいました。早期診断がテーマではありますが、サブテーマにある通り、ライフステージの観点から、乳幼児期から学齢期、青年・成人期に至るスパンでの貴重なお話をうかがうことができました。

「早期診断」というと、乳幼児期のテーマなのではととらえがちですが、必ずしもそうなのではなく、「早期診断は予防につながる」として、二次障害の予防などの面からも「発達」という長期的な見通しの中でとらえることの重要性について、学ぶことができました。そして、「診断前支援」の重要性についてもお話をうかがいました。神尾先生は、「診断すること（次の支援の手立てにつなげる）」と「診断名の告知」とは別もので、「一緒にみていきましょう」というメッセージを伝えていくことが大切と強調されていました。

また、具体的に、PARS（広汎性発達障害日本自閉症協会評定尺度）やM-CHATなどについてもご紹介いただきました。

ライフステージを見通した支援のあり方を考え直すきっかけとなり、明日からの臨床へと結びつけることができました。

（文責：吉田 麻衣）

研修会の様子



神尾 陽子氏



＜午後の部＞

今回の研修では初の試みとして、支援対象者の年齢ごとに分かれた分科会形式で、実践報告をもとにした意見交換を行いました。

分科会 1：乳幼児～就学期

実践報告：「乳幼児健診や発達相談」

報告者：網中 泉（横浜市福祉保健センター）

分科会 1 には、乳幼児健診相談担当者を中心に小学校教員や福祉施設職員等、様々な職場から計 23 名が参加しました。

最初に横浜市福祉保健センター発達相談員、網中先生より、横浜市における乳幼児健診の流れや発達相談の実際について実践報告がなされました。発達相談は稼働率が高く、すぐに予約が埋まる状況のようですが、保護者に育児支援をしながら発達の課題に気づいてもらうための重要な場になっているとのことでした。

意見交換では、参加者の地域での乳幼児健診やその後のフォローアップの実際について情報交換をしました。また、学校関係者からは乳幼児期の支援の重要性が指摘されるとともに、乳幼児健診の内容や方法について今後も情報交換をしてほしいとの要望が出されました。

（文責：久保山 茂樹）

分科会 2：就学期～思春期

実践報告：「4 障害教育部門を有する特別支援学校の現状と課題」

報告者：橋爪 美津子（県立相模原中央支援学校）

分科会 2 には、特別支援学校教員など学校関係 8 名、教育機関の相談員等 7 名、医療・福祉施設職員 4 名、大学・研究機関 2 名、計 21 名が参加しました。

①参加者同士の自己紹介、②実践報告、③参加者全員での意見交換の流れで進行がなされました。橋爪先生からの実践報告では、4 障害教育部門を有する全国的にも数少ない学校である県立相模原中央支援学校の現状や課題について、主に中学部の取り組みをご紹介いただきました。さまざまな状態像、支援ニーズのある子どもたちが在籍することで、教育運営上の難しさを感じる一方で、児童生徒間だけでなく教員間の縦断・横断的な交流が多くなされているとのことでした。

意見交換の場では、特に「職員間、また他機関との連携」「職員の人材育成」について、参加者からそれぞれの立場、地域事情を踏まえた取り組みや課題に感じていることが話題に上がり、活発な意見交換が行われました。

（文責：白馬 智美）



分科会 3：思春期～成人期

実践報告：「『困難校』と称される公立高校における特別支援教育実践の成果と課題」

報告者：竹本 弥生（神奈川県立綾瀬西高等学校）

分科会 3 には、14 名が参加しました。竹本先生からの実践報告では、『困難校』での『特親クラス（特別丁寧に親切に授業を実施するクラス）』における特別支援教育の取り組みについてお話をうかがいました。希望する生徒に、数学を中心に基礎基本事項の確認やグループ学習など、学生ボランティアをアシスタントティーチャーに細やかな指導を行っているそうです。生徒さんの「実態」や、学習や生活の「環境」は、予想以上に厳しいようです。しかし、そのような生徒さんを相手にパワフルに実践をされている竹本先生のお話は、とても心強く、自分自身が今関わっている子どもたちが数年後にこんな先生とめぐり逢えたらいいなど、あたたかい思いになりました。

（文責：吉田 麻衣）



神奈川県支部研修会についてのアンケート結果

アンケート回収率： 78.0% (67名/99名) ※意見・感想は主だったものを記載

1. 午前の研修内容について

講演会：発達障害のアセスメントの最新動向

「自閉症スペクトラム児の早期診断とその意義～ライフステージの観点から～」

神尾陽子先生（(独)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所）

① この研修内容は自分の知識の広がりにつながるものだった

とてもそう思う・そう思う（63名；94.0%）どちらでもない（1名） そう思わない（1名）

② この研修内容は臨床場面に役立つものだった

とてもそう思う・そう思う（63名；94.0%）どちらでもない（1名） そう思わない（1名）

③ 午前の研修内容へのご意見ご感想

- ・ 早期発見、支援の意義、乳幼児健診の大切さ等がよくわかった。また、発達の課題と二次障害のつながりについても学ぶことができた。
- ・ 乳幼児のASDの有する様々な問題について、研究結果をベースにとっても説得力のある講義をしていただき、勉強になった。とくにASDの1～2歳についての理解が深められたことは、今後役に立つ。
- ・ 最新の動向、最先端の研究の情報が聞けて大変参考になった。定期的にこのような研修会があるとよい。

2. 午後の研修について

分科会：支援対象別の実践報告と意見交換

分科会 1：乳幼児～就学期、分科会 2：就学期～思春期、分科会 3：思春期～成人期

① この研修内容は自分の知識の広がりにつながるものだった

とてもそう思う・そう思う（35名；100%）

② この研修内容は臨床場面に役立つものだった

とてもそう思う・そう思う（34名；97.1%） どちらでもない（1名）

③ 午後の研修内容へのご意見ご感想

- ・ （分科会 1）：横浜市の健診の現状がよくわかった。ライフステージごとの子どもや保育への支援や課題について共有できる機会があるとよい。それがお互いの連携にもつながると思う。
- ・ （分科会 2）：4障害4部門の学校の現状がよくわかった。各地域の様々な取り組みの現状について情報・意見交換ができ有意義に感じた。時間が足りなかったが、討論の中心になるようなテーマを明確に絞ると意見交換が深まるのではと感じた。
- ・ （分科会 3）：高校でこのようによい取り組みをしている所があると知ることができた。いかに広い視野と柔軟な思考が大切か感じた。支援がメンタル面でのfollowになっている。このような取り組みを是非続け発展させてほしい。

3. 神奈川支部のホームページについて

○ 神奈川支部のホームページをご覧になったことがありますか？〈それに対する意見〉

ある（30名；65.2%）〈見やすい、わかりやすい〉

ない（8名；17.4%）〈是非見てみたい〉

知らなかった（8名；17.4%）

アンケート係より

全体を通して「今回も会場がよかった」といったご意見もいただきました。また、今回初めて取り入れた午後の分科会形式の意見交換の場も有意義だったという多くのご意見をいただき、ホット胸をなでおろしています。次回に活かしていきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

（文責：橋爪 美津子）

お知らせ

神奈川支部 2013 年度第 2 回研修会の予定

○日時：2013 年 11 月 30 日（土）10：00～15：30（予定）
（午前 1 ポイント・午後 0.5 ポイント）

○会場：bono 相模大野 ユニコムプラザさがみはら（予定）

○テーマ：「インクルーシブ教育システム構築に向け臨床発達心理士に期待されるもの（仮）」

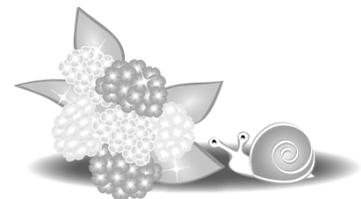
○講師：川上 康則先生（東京都立港特別支援学校）
笹森 洋樹先生（国立特別支援教育総合研究所）

※ 詳細が決まりましたら神奈川支部ホームページ、郵送（神奈川支部会員のみ）にて、お知らせいたします。

日本臨床発達心理士会 第 9 回全国大会が、下記の要領で開催されます。

会期	2013 年 9 月 15 日(日)～16 日(月・祝日)
会場	千葉大学西千葉キャンパス（千葉市稲毛区弥生町 1-33）
大会準備委員会	日本臨床発達心理士会 千葉支部

※ 詳しくは、ホームページをご覧ください。（<http://www.jacdp.jp/congress/>）



<編集後記>

衣替えの季節となり、暑さが日ごとに増してまいりました。皆様いかがお過ごしですか。

今年度も広報担当より、年 2 回のニューズレターの発行、よりタイムリーな情報をお届けする神奈川支部ホームページ運営を通じ、「心理職の国家資格化に関する情報」や「研修会のお知らせ」等を、皆様にお伝えしていきます。どうぞよろしくお願ひします。

長雨の季節でもありますので、体調をくずさないようお気をつけください。

（広報担当 武部正明・白馬智美）